

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

〔一〕(評論) 採点基準 (合計＝50点)

問一 10点

A ○5点

B ○5点

(模範解答例) 現在の惨状にこれ以上苦しめないように、

未来に対するねがいの気持ちを口に出すかたちで、嘘いつわりは生まれてくると「う」と。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う。ただし、加点要素の語があっても、つながりが明らかにおかしい場合は加点しない。また、「嘘いつわりが生まれる」話ととれなければ要素はあっても全体×0点。】

A 「現在の惨状にこれ以上苦しめないように」(5点)

○ 「現在の惨状(うまくは「ばない」)の指摘「+」(惨状を)終わらせる・向上させる・良くする」の要素。

↓ 「現在の惨状にこれ以上苦しめないように」「現在の惨状を限りたくなる」「自分たちの実人生をすこしでも向上させたいが、それがうまくは「ばない」などで○。

△ 「人生をすこしでも向上させたい」だけは、「現在の惨状(うまくは「ばない」)要素がはっきりしないので、△3点

× 単に「人生」とだけ指摘し、現状が惨状であることが全く読み取れない場合は×0点。Aは得点なし。

B 「未来に対するねがいの気持ちを口に出すかたちで、」(5点)

○ 「未来に対するねがいの気持ち() (ありたい未来、あらまじ「と」「+」口に出す・「と」ばにする)の要素。

△ 「未来に対するねがいの」要素のみで、「口に出す・ことばにする」の要素が書かれていない場合△4点。

△ 「現状から目をそむけた願い」のような表現はちょっとおかしいが、「未来に対するねがいの」要素の変形として、△2点与える。

問二 5点

二

問三 2点×2＝4点

イ・へ

ハ

問五 8点×2＝16点

(1) 8点 A ○2点

(模範解答例) 実際には与えなかったが、

B ○3点

山村の子供の赤くなった手のひらを見たときに

C ○3点

金銭を与えなくなったため、「銭くれて」と表現した。

各加点要素の加点の条件

【Cに得点があれば、部分採点を行う (Cに得点が無ければ全体×)】

A 「銭を実際には与えなかったが」(2点)

○ 「実際には銭を子どもに与えていない」という内容

○ 「実際にはそうしなかったが」のような表現でも、全体として意味が取れば○。

B 「子供の赤くなった手のひらを見たとき」(3点) (条件)

○ 「子供の赤い手のひら」という内容が必須。「子供の」は他の要素中にあり、意味が通ればBになくても可。

C 「金銭を与えなくなったため、「銭くれて」と表現した」(3点)

○ 「金銭を与えなくなった」の内容(理由) + 「銭くれて(金銭を与えた)と表現(改変)した」の内容(結果)で○3点。

△ (理由) が書かれておらず、(結果) のみの場合は、▲1点減点で△2点。

× (理由) のみで(結果≡改変の内容) が書かれていないのは全体×。(設問は「改変」の内容を問うている)

(2) 8点

A ○2点

(模範解答例) 実際には青くはなかったが

B ○2点

旅人にはまるで海の青さを宿して青くなったように感じられた

C ○2点

D ○2点

「蟹の瞳を」、「青き瞳」として表現した。

各加点要素の加点の条件

【Dに得点があれば、部分採点を行う。(Dに得点が無ければ全体×)】

A 「蟹の瞳は」青くはなかった」(3点)

○ 「蟹(の子)の瞳は」 本当は青くなかった」の内容

○ 「実際はそうではなかったが」のような表現でも、全体として意味がとれれば○。

B 「旅人には海の青さを宿して青くなったように感じられた(ので)」「(2点)

○ 「蟹(の子)の瞳は」 旅人には海の青さを宿して青くなったように感じられた(ので)」「という、

(結果⇨改変内容) に対する(理由)の内容

C 「蟹の瞳を」(2点)

○ 「蟹の瞳」は「蟹の子の瞳」でもよい。

× 「瞳」だけでは加点要素にならない。

※CはAの前でも、Bの前でもDの前でも、どこかに書かれていて、意味が通じればよい。

D 「青き瞳」と表現した。」(2点)

○ 「青き瞳」と表現(改変)した」という結果が書かれていればよい。

○ 「青い瞳であると表現した」等の表現で○。

○ 「青き瞳」という内容がDの前にあり、それを指示語で受けて、「そのように表現した」のような表現になっても同意なので○。

×単に「改変した」「表現した」では、どのように改変(表現)したか不明なので×。

×(結果⇨改変の内容)が書かれていないのは全体×。(設問は「改変」の内容を問うている)

問六 5点

ホ

問七 5点

ロ

二 現代文 (50点)

問一 各2点×4＝計8点

- 1 枯渴 (涸渴) 2 うよ 3 しれつ 4 閉塞感

問二 8点

A ○2点

(模範解答例)

二位以下の候補者にも加点できることよって、

B ○2点

上位の点差は大きくなる一方で、下位の点差は小さくなり、

C ○4点

有権者の意思が反映されやすい点。 (六五字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「二位以下の候補者にも加点できる」 (2点)

※ 「多数決と比較したダウダールールの利点」に関する説明1

※ 本文の「多数決だと2位以下へ一切の加点ができないが、ダウダールールだとそれができる」を踏まえて、

「二位以下の候補者にも加点できる」ことが説明できていれば、Aに関して満点(2点)とする。

B 「上位の点差は大きくなる一方で、下位の点差は小さくなり」 (2点)

※ 「多数決と比較したダウダールールの利点」に関する説明2

※ 本文の「(有権者が順位を決めやすいであろう) 上位では点差が大きつく一方で、(五十歩百歩で決め

にくい) 下位では点差が小さくなる」を踏まえて、「上位の点差が大きくなる一方で、下位の点差は小さくな

る」ことが説明できていれば、Bに関して満点(2点)とする。

C 「有権者の意思が反映されやすい」 (4点)

※ 「多数決と比較したダウダールールの利点」に関する説明3

※ 本文の「(多数決は) 人々の意見が適切に集約できない」や「(多数決という) 自分たちの意思を細かく表

明できない・適切に反映してくれない」を踏まえ、それを裏返した形で、「有権者の意見が適切に集約され

る、適切に反映される」ことが説明できていれば、Cに関して満点(4点)とする。

○ 「有権者」は「国民」でもよい。

問三 各2点×5＝計10点

I Ⅱホ II Ⅱト III Ⅱハ IV Ⅱロ V Ⅱチ

問四 10点

A ○3点 ※A後半と併せて3点

(模範解答例) ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近かったため、

B ○3点

(A後半)

事前の世論調査で有利だったゴア の支持層を一部奪うことで、

C ○4点

票が割れてブツシユが漁夫の利を得て大統領選挙に当選した。 (80字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近かったため、ゴアの支持層を一部奪う」 (3点)

※本文の「ネーダーの政策はブツシユよりゴアに近く、選挙でネーダーはゴアの支持層を一部奪うことになる」を踏まえた内容が説明できていれば、Aに関して満点(3点)とする。

B 「事前の世論調査で有利だったゴア」 (3点)

※本文の「事前の世論調査ではゴアが有利、そのまま行けばおそらくゴアが勝ったはずだ」を踏まえて、「事前の世論調査でゴアが有利だった」ことが説明できていれば、Bに関して満点(3点)とする。

C 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得て大統領選挙に当選した」 (4点)

※本文の「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」や「ゴアは負け、ブツシユが勝つことになった」を踏まえた内容が説明出来て入れば、Cに関して満点(4点)とする。

○ 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」 (2点) + 「ブツシユが大統領選挙に当選した」 (2点) Ⅱ4点

△ 「票が割れてブツシユが漁夫の利を得た」、 「ブツシユが大統領選挙に当選した」のどちらか一方の場合、

△2点

A ○3点 ※A後半とあわせて3点

(模範解答例) 多数の人々の意思を、

B ○3点

できるだけ細かく適切に反映させて、

(A後半)

「つにまとめる仕組み。」 (三七字)

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「多数の人々の意思を、つにまとめる仕組み」(3点)

※ 「性能のよい集約ルール」の説明¹

※ 本文の「多数の人々の意思をひとつに集約する仕組み」を踏まえた内容が説明できていれば、Aに関して満点(3点)とする。

× 本文全体を通して、「多数の人々」という表現がなく、「有権者」という表現だけになっているものは、Aに関する加点を行わない。「有権者の多く」となれば○

B 「できるだけ細かく適切に反映させて」(3点)

※ 「性能のよい集約ルール」の説明²

※ 本文の「(多数決という)自分たちの意思を細かく表明できない・適切に反映してくれない」を踏まえ、それを裏返した形で、「多数の人々の意思を細かく表明できる・適切に反映させる」ことが説明できていれば、Bに関して満点(3点)とする。

△ (多数の人々の意思を)「細かく表明できる」・「適切に反映させる」のどちらか一方の場合△2点。

◆文末表現に関して

○文末は「仕組み」が最もよいが、「もの」でも構わない。

▲文末に「ルール」をそのまま用いているものは、A・Bの合計点から▲1点減点する。

問六 各4点×2＝計8点

ロ・ニ (順不同)

三 古文(50点)

問一 各1点×5＝計5点

- Ⓐ □ Ⓑ ハ Ⓒ ト Ⓓ ニ Ⓔ へ

問二 各5点×2＝10点

【A】5点

A○1点

(模範解答例)

この小侍従なら

B○2点

何か優美な話が

C○2点

ありそうだ。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点】

A 「この小侍従なら」(1点)

○ 「小侍従には」も可。

× 傍線部の「ここ」は人物を指している。また、設問が必要な言葉を補って答える設問であるため、『小侍従』というように、具体的にないもの(「この人」「この女」など)は加点しない×。

B 「(何か) 優美な話」

※ 傍線部「優なる事」の訳の部分。

○ 「優美な話」「優雅な話題」など。「色っぽい話」「艶っぽい話」などでも可。「話」は「こと」「でも可。

△ 「すぐれた話」「趣がある話」などはこの場面の訳としてはズレているので、△1点とする。

C ありそうだ。

※ 「むず(推量の助動詞)」の訳。

○ 「(話)があるだろう」「(話)があるのでしよう」も可○。

× 「話をするだろう」は×。小侍従が「優美な話題を」持っているだろうと、言っている。直後で小侍従も、この部分を受けて、「多く候ふよ(たくさんございますよ)」と言っている。

【C】5点

A〇3点

(模範解答例)

体裁が悪いくらいに

(B前半)

急いで

C〇1点

迎える車に

B〇1点

乗ってしまった。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点】

A 「体裁が悪いくらいに」(3点)

※ 「人わるきほどに」の訳

○ 「みっともないくらいに」「体裁が悪いほどに」など。

B 「急いで乗ってしまった」(1点)

※ 「急ぎ乗られぬ」の訳

※ 「れ」は自発。「ぬ」は完了なので、それを踏まえた訳になっていること。

○ 自発+完了の、「(思わず)乗ってしまった」のニュアンスであればよい。

※ 自発の「れ」は「自然と」のように、(書くどむしろ不自然なので)言葉にしていなくても構わない。(もちろん、あっても構わない)また、「乗られずにはいられなかった」のようなものも可○。自分がした動作であるように書かれていればよい。

× 「自発の「れ」を、「急いで乗られてしまった」のように、受身や尊敬のように訳されているのは×。乗ったのは自分。

× 「急いで乗った」などは、自発+完了の訳でないので×。加点しない。

▲牛車に乗ったのは小侍徒だが、もし、小侍徒以外の主語を補っていた場合、▲1点減点とする。「私は」は構わない。

C 「迎える車に」(1点)

※何に「急ぎ乗られぬ」なのか、具体的に乗ったものを補った部分。

○小侍徒を迎えにきた「車」であることがわかればよい○。

○「車に」や「牛車に」でも○。

問三 5点

そのかみく候ひしか

問四 各2点×4＝計8点

1 へ 2 ニ 3 イ 4 口

問五 3点

後白河院（法皇）

※解答のみ

×「後白河法皇」は×。文中にない。

問六 4点

ハ

問七 8点

A ○5点

（模範解答例）

交際相手の男性の名前を明らかにすることは

B ○2点

すべきないという

C ○1点

しない。

各加点要素の加点の条件

【B・Cは、Aに得点がある場合のみ加点できる】

A 「交際相手の男性の名前を明らかにすること」(5点)

※「その事」の具体的内容説明

○「交際相手」＋「男性・人（の名前）」＋「はっきりさせる・言う」すべての要素がそろっていること。

▲3つの要素がそろっていない場合は、

①「交際相手」・②「男性・人（の名前）」・③「はっきりさせる・言う」と、分けて、**1要素欠ける**ごとに**▲2点減点**する（ただし、A0点まで）。

○「交際相手」の要素は「つきあっている」「いっしょにすごした」などそのニュアンスが伝わればよい。

△「話題の人物の名を明かすこと」は、「交際相手」のニュアンスがナシ**▲2点減点**で△3点。

✖傍線部の「その事」が指す部分「そのぬしをあらはすべし」の部分そのままひっぱった、「主をあらわすこと

は」のような答えは説明できていないので加点しない。×0点。

B「できない」(2点)

※「かなひ侍らじ」の部分

「できない」という不可能の意。

※Aに得点がなければ加算できない。

C「こと」(1点)

※文末の処理。

※Aに得点がなければ加算できない。

問八 5点

ハ

問九 各1点×2＝計2点

(I) ロ (II) ニ

〔四〕(漢文) 採点基準(合計≒50点)

問一 各2点×4≒8点

a ≒ まさに b ≒ かつて c ≒ にわかに d ≒ ついに

※歴史的仮名遣いは1点。

問二 4点

軍隊・軍

※「兵」「兵隊」は不可。

※別解として、「師団」は可とする。

問三 8点

(模範解答例)

a 2点 b 4点
事に慎重すぎる范仲淹よりも、

c 2点

勝負にとらわれず戦おうとする

韓琦の方がすぐれている。

※採点基準 比較の構造で述べていなくとも a・c の要素で加点する。

a 「すぎる」の要素に1点。

b 比較ができていること。人物の逆転は不可。

c 「積極的に」などは1点。

問四 5点

(模範解答例)

これおよぼざるゆえんなり(と)

※採点基準

・ 現代仮名遣い・ひらがなであること。

・ 「所以」を「ゆゑん」としたものの減点1点。

・ 漢字交じりにしたものの0点。

・ 「此」を「これが」「これは」「かく」「かくの」「この」「この」など0点。

・ 「也」を「や」「か」としたものの0点。

問五 10点

(模範解答例)

a 2点
亡くなった兵士の家族が
b 2点
大勢泣き悲しむ姿を見て

c 2点

韓琦も悲しみと憤りに耐えきれず、涙があふれて、

d 2

e 2点

馬を止めて、数時間も一歩も前へ進むことができなかった。

※採点基準

- ・ a、bの理由部分で4点とする。
- ・ c、d、eの現代語訳で6点とする。
- ・ cとeは不可能でなければ不可。
- ・ 傍線部以外はかけている箇所ごとに減点1とする。
- ・ 「堪え」「耐え」はどちらも可。ただし誤字に注意。
- ・ c「耐えられず」の要素がなく「悲しみのあまり」などの場合は1点
- ・ d「しばらく」の場合は1点

問六 5+5+5=15点

(i) 5点

(模範解答例)

難^レ置^二勝敗於度外^一也。

(ii) 各5点 5×2=10点

范仲淹

a 2点

(模範解答例)

一度軍が動く^二と大勢の人の命に関わるので、

b 1点

勝敗を度外視するわけにはいかず、

c 2点

慎重に判断すべきだ^二という考え方。

※採点基準

a 「命・生命」に触れていないもの1点。

c 具体的に「負けそうな戦争はさける」など…1点

韓琦

(模範解答例)

a 2点

戦争は正しいかどうかの道理が問題であり、

b 1点

勝敗は度外視して、

c 2点

結果は運に任せるとい^二う考え方。

※採点基準

a 「正義・道義」に触れていないもの0点。

c 「運」は「天・天命」なども…1点